



学校だより



1月号

子供たちと共に「最高の時」を

新年、あけましておめでとうございます。

閉校まで3ヶ月をきりました。統合の年を迎え、気持ちが引き締まる思いがします。そして、子供たちと教職員、保護者・地域の皆様方が、心身共に健康で、新しい一歩が踏み出せますようにと願わずにはられません。

1・2学期に行った記念式典をはじめ運動会・音楽会では、保護者、地域の方々が、100年の歴史を懐かしみ、共に喜ぶ姿を目にし、「おらが学校・平野小学校」の強い思いがうかがえました。平野小学校は、周りの方々に支えられながら多くの卒業生を送り出してきたこと、歴史ある平野の街は、いつの時代も人の温かさでつながっていることを実感しました。100年の歴史に幕を降ろすことはさびしいことですが、統合は新しいスタートです。一人一人の心に思い出としていつまでも残るよう、今までの感謝の心を大切に、子供たちと一緒に「最高の時」をつくっていききたいと思えます。

どの子ども子どもは星

どの子ども子どもは星
みんなそれぞれがそれぞれの光をいただいてまばたきしている
僕の光を見てくださいとまばたきしている
わたしの光も見てくださいとまばたきしている
光を見てやろう まばたきに伝えてやろう
光を見てもらえないと 子どもの星は光を消す まばたきをやめる
まばたきをやめてしまおうとしはじめている星はないか
光を消してしまおうとしはじめている星はないか
光を見てやろう まばたきに伝えてやろう
そして
やんちゃ者からはやんちゃ者の光
おとなしい子からはおとなしい子の光
男の子からは男の子の光
女の子からは女の子の光
天いっぱい 子どもの星を 輝かせよう

これは、「東井義雄」さんの詩です。子供たちと「最高の時」を過ごすためには、子供たちと向き合い、子供の放つ光を受け止めることが大切です。子供は、認めてもらうことで満足感を覚え、心身ともに安定します。豊かで充実した毎日を過ごして閉校を迎えることで、神戸祇園小学校への希望と期待につなげたいと思えます。

平野地域に住む人たちが、自分・友達・家族・地域など「みんな 大好き！」と言って閉校を迎えられますよう、チーム平野の皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

校長 小川 信子